

子ども国際観光科

各校取組

令和6年度 町内小学校3年生以上

1 活動の概要

3年生はこれまで総合的な学習の時間「松島海探検隊」で、松島の文化的な建物や特産品について調べてきた。また、子ども国際観光科「I like blue.」の学習では「I like ～」の表現を使って自分の好きな色やスポーツについて紹介をする活動を行ってきた。今回の活動ではこれらの学習のまとめとして、自分が松島について調べてきた中で見つけた「好き」を「I like ～」を使ってカードにまとめ、紹介させた。

品井沼



なぜほくが高城川にしたかと言うと、桜並木に咲く桜が美しいからです。くたいてきな場所は宮城県宮城郡松島町にあり、そこに桜並木があります。その高城川にある桜並木は、なんと約2キロメートルにわたって高城川をいに絶えてあります。毎年4月になると川沿い一帯の桜並木に桜が咲きます。ぜひ皆さんも行ってみてください！



仁王丸は、外に行けるベランダがあって普通も海なのに、すごく綺麗で風が吹いてて気持ちいいです。240は、大きくて2階もあります。外は、日本三景と同じです。すごく綺麗です。ベランダに出ると疲れが飛んでスッキリします。



I like Zuigannji.



2 活動を終えて(留意した点や活動中の児童の様子など)

- ・これまでに総合的な活動で、どのような調べ活動をしてきたかを写真や総合ファイルを使って、振り返らせた。
- ・子供たちは積極的に友達に話しかけ、自分が調べた物について「I like ～」を使って紹介することができていた。
- ・活動後は、子供たちが作ったカードを教室に掲示し、活動を振り返られるようにした。

3 児童の感想

- ・ポスターを作って松島のいろいろな魅力について学ぶことができた。また松島の良さをよく知ることができた。
- ・調べるのは難しかったけど、新しい松島について知ることができてよかった。

4 次年度へ向けて(成果と課題)

- ・子ども国際観光科で学習した表現を、他の学習に生かすことで、その文法表現がより子供に定着したと感じた。
- ・「I like ～」を学習してから、今回の活動をするまでに時間が開いてしまったので、時期については検討が必要である。

1 活動の概要

4年生はこれまで総合的な学習の時間「世界の国を調べよう」で、松島には様々な国から観光客が来ていることを学習してきた。また、子ども国際観光科「This is my favorite place.」の学習では「My favorite place is ~」の表現を使って自分のお気に入りの場所について紹介をする活動を行ってきた。今回の活動ではこれらの学習のまとめとして、自分が観光客の人に紹介したい松島のお気に入りの場所について、「My favorite place is ~」を使って紹介し、「I like ~」を使っておすすめしたい理由を話す活動を行った。



My favorite place is Inari Jinja.



My favorite place is Kodomokichi.

I like snack.

2 活動を終えて(留意した点や活動中の児童の様子など)

- ・紹介する場所の写真をタブレットで見せながら友達に伝えるようにしたことで、指さしをしながら紹介する様子が見られた。
- ・子供たちは積極的に友達に話しかけ、自分が紹介したい理由についても「I like ~」を使って紹介することができていた。
- ・活動の最後に、誰になりきっているのかを当てるゲームをすることを事前に伝えていたことで、友達の紹介したい場所や理由をよく聞こうとしている様子が見られた。

3 児童の感想

- ・もっと発音や言い方に気をつけて、外国の人でも納得した理由を話したり、ちゃんと聞き取ることができたりするように頑張りたい。
- ・理由も英語で言えるようになりたい。おすすめの場所を言うことができた。

4 次年度へ向けて(成果と課題)

- ・子ども国際観光科で学習した表現を、他の学習に生かすことで、その文法表現がより子供に定着したと感じた。
- ・外国語活動「My favorite place is ~」と社会科「美しい景観を生かすまち・松島町」の学習と同じ時期に行ったことで、児童はスムーズに活動に取り組むことができていた。

1 活動の概要

これまで、総合的な学習の時間に和太鼓について調べ、学習発表会では、五大堂太鼓の演奏を行った。また、外国語の学習では、「聞いて!わたしの町じまん」という単元で、自分の町を紹介する英語での表現を学習した。そこで、子ども国際観光科の学習では、松島にある食べ物や建物、文化(和太鼓)などについて、ロイロノートでスライドを作り、紹介を行った。「You can~」や「This is~」などの文を用いて発表を行った。クラス内で発表の練習を行った後で、学年で発表会を行った。



2 活動を終えて(留意した点や活動中の児童の様子など)

- ・活動中は、子供たちが作ったカードを教室に掲示し、活動を振り返られるようにした。
- ・分からない言い方や表現について全体で確認する機会を設けることで、児童が安心して発表の準備を行うことができていた。

3 児童の感想

- ・町のよいところを知ることができた。
- ・町の紹介の仕方が分かった。

町のよいところを再確認できたという感想が見られた。

4 次年度へ向けて(成果と課題)

- ・自分の町を紹介するという身近なテーマだったことから、意欲的に取り組む児童が多く見られた。また紹介したい場所、食べ物についても深く知ることができた。
- ・学習発表会で和太鼓を演奏した後に行ったので、自身の経験を振り返ることができた。

松島第一小学校 6年「見つめよう わが町松島～松島の歴史編～、～プロジェクト松島編～」

1 活動の概要

総合的な学習の大単元「見つめよう わが町松島」の中に「松島の歴史編」「プロジェクト松島編」を位置付け、「松島まるごと学」での学習を契機に関心を持ったことについて、児童が調べたり話し合ったりして学習を進めている。学習の成果を発表する際に外国語学習で学んだことを取り入れ、より多くの人に向けて発信していくという意識付けを図った。

「松島の歴史編」では、「松島まるごと学」として西の浜貝塚や雄島、瑞巖寺を見学したり、座禅体験をしたりした。松島の歴史について関心を持って調べ学習をしたことをもとに脚本を作り、学習発表会で「バック・トゥ・ザ・マツシマ」として劇を発表した。劇中に英語であいさつをしたり、リアクションをしたりする内容にした。



「プロジェクト松島編」では、松島町役場企画調整課と連携し、未来の松島がよりよい町になるように、子供たちが提案事項を考えてプレゼンテーションを行った。その際、外国語学習で学んだ表現を生かせる部分を探し、英語での説明も加えて発表した。

2 活動を終えて(留意した点や活動中の児童の様子など)

- ・「松島の歴史編」「プロジェクト松島編」のどちらも、あらかじめ用意された英語を暗記するのではなく、自分たちの発表のどの部分に外国語学習で学んだことが生かせるかを児童が考え、外国語専科やALTの指導を受けながら相手を意識した英語のやり取りを目指すように留意した。
- ・「プロジェクト松島編」では、町内に在住する外国人をボランティアとして学校に招き、「こども未来アカデミー」の発表のリハーサルで、英語の発音の仕方を教わった。児童は英語が伝わるように発音に気を付けて話しており、伝わったことで自信を持つことができた。

3 児童の感想

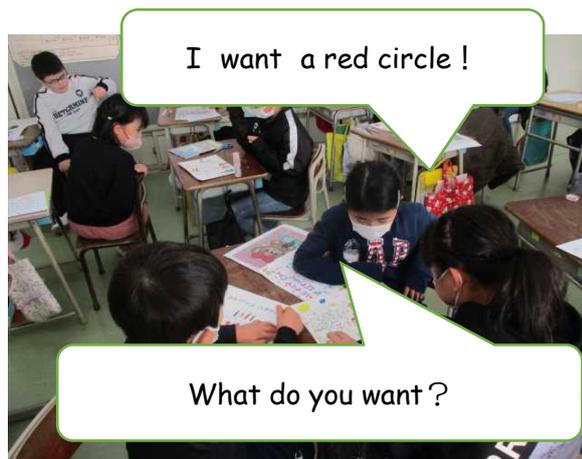
- ・はじめは劇の英語のせりふやプレゼンテーションの英文を話すことに抵抗があったが、友達と何度も練習して少しずつ慣れることができた。
- ・ボランティアの外国人から発音や発表をほめてもらい、自信がついた。ほかの発表内容も英語にして話してみたいと思った。

4 次年度へ向けて(成果と課題)

- ・子ども国際観光科で学習した表現を、劇中のせりふやプレゼンテーションに生かすことで、文法表現がより子供に定着した。
- ・あいさつやリアクションを劇中に取り入れたり、相手を意識した英語表現ができるような場の設定を行ったりしたことで、相手を意識しながら英語を話そうとする児童が増え、発音の向上も見られた。

1 活動の概要

総合的な学習「探検ぼくらの松島」で、松島町の基本的な歴史や産業などについて知るために校外学習を行った。「わたしたちの松島」やパンフレットなどの資料も活用しながら、校外学習で見学したことや体験したこと、自分が興味を持った事柄について調べてまとめた。子ども国際では、各自総合でまとめたことを受けて、“What do you want?” 欲しいものを尋ねたり答えたりする言い方を使い、自分が紹介したいと考える「松島を紹介するカード」を作って英語で伝えた。



2 活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

- ・ 外国語の授業で、“What do you want?” というフレーズや形や色を表す言い方を学習したことで「英語で説明する」ことに抵抗感を感じずに伝えることができた。
- ・ スムーズに形や色を話すことができない児童も、子供たち同士で教え合う姿が見られた。
- ・ 「松島を紹介するもの」が似通うことはあるが、自分の考えたこととして捉えているので、できたことに対する達成感を持つことができた。

3 児童の感想

- ・ 松島のものを紹介するのは難しいけれど、形や色で伝えるのはおもしろかった。
- ・ 友達の表し方を見て参考になった。
- ・ 覚えた英語で、自分の作ったものを発表できて良かった。
- ・ 英語がたくさん言えるようになってうれしかった。
- ・ 欲しいものを聞いたり、答えたりすることが前より上手になってうれしかった。

4 次年度へ向けて（成果と課題）

- ・ 3年生の段階では、英語でのやり取りは今回のように全てを言うのではなく、学習したことに合わせて、スモールステップでのやり取りを進めていく方法が望ましいと思った。
- ・ 総合的な学習の校外学習の時期と外国語のセンテンスや表現の学習の時期について、見通しを持って学習を進める必要がある。

1 活動の概要

総合的な学習「田中川を調べよう。」では、田中川の水質や、川にいる生き物・植物についての調査活動において、児童の意欲的な取組が見られた。また、外国語活動の学習では、「I like～」の表現を用いながら、児童の共通の体験である田中川探検での活動を伝える学習につなげることが可能であると考えた。本単元では、田中川探検を通して体験したことや思い出に残っていることについて、既習の表現を少しずつ取り入れながら発表を行ったり、互いの発表について外国語で感想や気持ちを伝え合ったりする活動を行った。4年生で発表の練習をした後、5年生に向けて発表会を行った。



It looks yummy!



It's wonderful. Great. Interesting!

2 活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

- ・ 児童が使える既習の英語は限られており、全てを英語で表現することは困難であったため、相手の発表内容を聞いて、英語でリアクションを取る、相手の発表の良さを認めることを意識させた。
- ・ 発表内容を考える際には、1人ではなく3～4人のグループで既習の英語表現を使えるところがないかを考え、互いに助言しながら表現の仕方を工夫できるようにした。
- ・ グループでの活動やペアでの活動を繰り返しながら、少しずつ英語表現を増やしていく児童の姿も見られた。
- ・ 日本語と英語を交えながら使うことにあまり抵抗はなく、積極的に思いを伝えようとする姿が多く見られた。

3 児童の感想

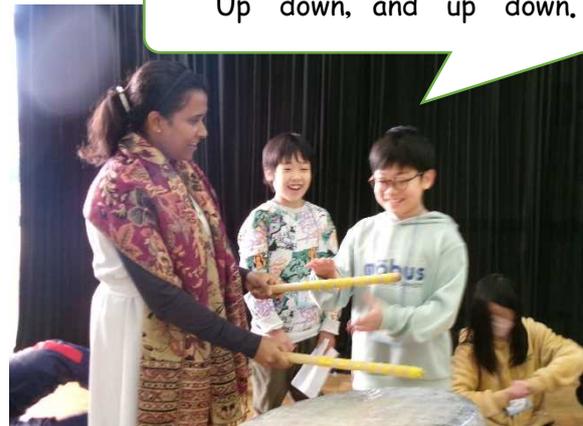
- ・ 色々な言葉を英語にするのがおもしろかった。
- ・ みんなと田中川のお気に入りを発表できて、自分も英語をたくさん使うことができて良かった。
- ・ 色々な人のお気に入りを知れて良かったし、色々な英語を知れてうれしかった。

4 次年度に向けて（成果と課題）

- ・ 英語と日本語を交えて表現することが難しいのでは、と懸念していたが、中学年の段階では英語と日本語を交えて発表する方法でも子供たちはあまり抵抗がなく、苦手意識を持たずに英語に親しむことができることが分かった。
- ・ 発表対象を上学年（5年生）にしたことで、英語を話す必要感が高まった。今後は5年生にとっても学びのある発表のあり方を検討したい。

1 活動の概要

総合的な学習「松島まるごと学 『五大堂太鼓』を学ぼう」で、地域の方々が創作した「五大堂太鼓」を習得し学習発表会で発表した。さらに、外国語学習で学んだことを生かして松島を訪れた外国の方々にその良さを伝える場を設け、松島の歴史的文化財について調べたことや「五大堂太鼓」を紹介する活動を行った。児童は、外国語学習で学んだ表現方法で、外国の方が体験する際の説明の言葉掛けなどを行った。



2 活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

- ・ 児童に「英語で説明する必要感」を持たせるために、MIA国際理解教育事業を利用し、3人の外国人の方々に、太鼓の打ち方を英語で説明する活動を設定した。
- ・ 「誘うとき」「教えるとき」「認めるとき」「教えて！水本先生、マーティン先生」の項立てで、基本話形や単語を繰り返し発話させた。タブレットでテキストを配布し、グループでの発話に活用させた。実際に英語でやり取りする中で、事前に準備したフレーズ以外にも知っている英単語を使ったり、ALTやJTEに英語表現を積極的に質問したりする様子が見られた。
- ・ 外国の方から、英語で質問され、「質問の内容が理解できた」と喜ぶ児童の姿も見られた。

3 児童の感想

- ・ 友達が2人ペアで、太鼓をたたく様子を見せる人とそれを英語で説明する人に分けていたので、より伝わりやすいと感じました。
- ・ 松島の良さを英語で説明したら、カザフスタンの方に「おいしそう、食べてみたい」と感想をいただき、うれしかったです。

4 次年度へ向けて（成果と課題）

- ・ 英語での即興的なやり取りを実現するためには、実際に外国の方と活動しながらやり取りすることが、大変効果的であることが分かった。
- ・ MIA国際理解教育事業を利用するには、費用（1プログラム15,000円）が必要であり、活動を継続的に行っていくためには、その費用をどこから捻出していくかが課題である。

1 活動の概要

児童は総合的な学習「よその町を訪ね、松島と比較しよう」で、修学旅行で訪れた福島県会津若松市の歴史、地理、文化、特産物等について各自で調べ、自主研修や見学を通して学んだことをロイロノートにまとめ、5年児童と保護者に発表した。また、外国語の学習では、「I went to…」「I enjoyed…」「I ate…」「I played…」などの表現を学んだ。本単元では、総合的な学習で体験したり調べたりしたことを、外国語の学習で学んだ表現方法で発信する力を高めることを目指した。



2 活動を終えて(留意した点や活動中の児童の様子など)

音声で親しんだ単語、英語表現を書く活動につなげるため、日本語の文章を書いて英語に言い換えるのではなく、伝えようとするを既習の英語表現を使ってできるだけ英語で話してみたら、言い方等を聞いたり調べたりして書かせるように指示した。しかし、児童は正しい英文を書くことにこだわり、英語で話すことより書く方を優先したため、知っている英語を使ったり、互いに話し合いながら活動をしたりといった、教師が期待するような展開にはならなかった。そこで、次時からはカードに英文を書くことを止め、写真だけ提示して、出来事や思ったことを即興的に知っている英語で話す活動に変更した。こうすることで、書いてあることを「読む」のではなく、自分の言いたいことを知っている英語を使って「話す」児童の姿が見られた。

なお、話す様子を動画に撮ったところ、また英文を書いて「読む」という姿に逆戻りしてしまった。五小6年児童にオンラインで発表したときは、「話す」姿が見られた。このことから、生きた英語を話すためには、目の前に話す対象があり、話す必然性があることが必要だと分かった。

3 児童の感想

- ・ 授業で習った言葉だけでなく、修学旅行の思い出などを表す言葉をたくさん使えるようになった。
- ・ 「英語が使えた」という実感が持てた。
- ・ みんなスラスラと上手に話せていてすごいと思った。

4 次年度へ向けて(成果と課題)

- ・ 目の前に話す対象があり、話す必然性があるような場を設定する。
- ・ 体験したことは自分の言葉で表しやすく、話したいという意欲も持ちやすい。松島について総合的な学習で学んだことを、外国語の学習で学んだ英語表現を使って話すことで、それぞれの教科で学んだことが発展的に結び付き、子ども国際観光科がねらいとする、「実生活でも役立つ英語コミュニケーション能力の獲得」や「歴史と文化の継承者としての子供たちの育成」につながる。

松島第五小学校 3学年

台湾・双冬小学校とのオンライン交流

学年テーマ「双冬小学校の人たちに自己紹介を紹介しよう」

1・活動の概要

3年生は、台湾・双冬小学校との交流会に初めて参加する。そこで、普段の授業で使っているあいさつ
の他に、“Nice to meet you.” や、スピーチの後に “Thank you” をつけることを確認し、英語で自
己紹介を行った。

外国語活動で学習した “What ○○ do you like?” の構文を使って、台湾の子供たちに、自分の好き
なスポーツや食べ物を紹介した。他にも “How many ○○” の構文を使い、松島のマスコットキャラク
ター『どんぐりまっちゃん』や松島第五小の児童会マスコット『どのぐりくん』を使い、ミニクイズを出
題した。

『おもてなし英語』の紹介

- Hello, I' m○○○. Nice to meet you.
- What ○○ do you like? I like ○○○.
- This is DONGURI-MATTYAN. (DONOGURI-KUN.)
- How many DONGURI-MATTYAN? (DONOGURI-KUN.)

	
<p>What sports do you like? I like baseball!</p>	<p>How many DONGURI-MATTYAN? It' s Five!</p>

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

台湾南投県双冬小学校とのオンライン交流は3年目を迎えた。昨年度はライブでそれぞれの学校が英語
を使って交流をしたりダンスを踊ったりしたが、音声が聞き取りにくく、画像が途切れることもあり、児
童が準備したことが十分に伝えられない課題があった。そこで、本年度は動画で撮影したものを事前に双
冬小へ送り、オンライン交流の前に視聴して互いに感想や質問を伝え合うという試みに変えた。それによ
り、児童が発表内容を十分に理解した上で交流することができた。

また、昨年度までは『どんぐりころころ』を一緒に歌うだけだったが、今年度は台湾の童謡を中国語で
歌うことも取り入れ、児童が楽しんで練習する様子も見られた。

3・児童の感想から

- ・ 台湾から紹介された歌「バロボ」がおもしろかった。これからも時々歌いたい。
- ・ 双冬小では、自分たちでバナナのキャラクターを作って紹介していた。自分たちで松島のキャラク
ターを考えてみたい。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

3年生では、教師が考えた英語のセリフを暗記することで精一杯であり、児童が自発的に英語でどんな
ことを言いたいかを考えるのは難しいと思った。3年生の企画は台湾交流の入口であり、この経験を基に
して上学年では自発的に英語を使って紹介できることを考えられるようになるとよい。

台湾・双冬小学校とのオンライン交流 学年テーマ「双冬小学校の人たちに日本の音楽と、第五小学校で受け継いでいる踊りを紹介しよう」

1・活動の概要

4年生は、台湾・双冬小学校との交流会に初めて参加する。そこで、普段の授業で使っているあいさつや、“I like OO.”と英語で自己紹介を行った。

日本で流行っている歌やダンスを歌ったり踊ったり演奏したりして、双冬小学校の子どもたちに日本の音楽文化を紹介した。

第五小学校で4年生が上級生から受け継いでいる伝統芸能「菱取り踊り（表現）」や、3・4年生で取り組んだ「ジャンボリミッキー（合奏）」音楽の様子について、学習発表会の映像で紹介した。

		
<p>自己紹介 I like OO.</p>	<p>日本で流行っている音楽紹介と台湾の歌「バロボ」の歌唱</p>	<p>地域の伝統芸能「菱取り踊り(表現)」の紹介</p>

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

台湾南投県双冬小学校とのオンライン交流は3年目を迎えた。昨年度はライブでそれぞれの学校が英語を使って交流をしたりダンスを踊ったりしたが、音声聞き取りにくく、画像が途切れることもあり、児童が準備したことが十分に伝えられない課題があった。そこで、本年度は動画で撮影したものを事前に双冬小へ送り、オンライン交流の前に視聴して互いに感想や質問を伝え合うという試みに変えた。それにより、児童が発表内容を十分に理解した上で交流することができた。

また、昨年度までは『どんぐりころころ』を一緒に歌うだけだったが、今年度は台湾の童謡を中国語で歌うことも取り入れ、児童が楽しんで練習する様子も見られた。

3・児童の感想から

- ・ 台湾はレモンが有名で、双冬小の子どもたちで苗から育てていることに驚いた。
- ・ レモネードにバタフライピーを入れて、色の変わり方を見てみたいし飲んでみたい。
- ・ 台湾で歌われている歌「バロボ」を歌えて楽しかった。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

- ・ 児童が音楽好きな学年だったため、紹介したいことを考えやすかった。
- ・ 日本語で考えた伝えたいことをどう英語にしたらよいかを考えることが難しかった。

松島第五小学校 5学年 台湾・双冬小学校とのオンライン交流
 学年テーマ「双冬小学校の人たちに、松島第五小学校を紹介しよう」

1・活動の概要

5年生は、松島第五小学校について紹介した。双冬小学校の人たちに、松島第五小学校について紹介したいこととして、「五小の特色であるたてわり活動の紹介をしたい」「五小のいろいろな場所を紹介したい」などの意見が出された。それぞれのテーマごとに4つのグループに分かれて、紹介する活動を行った。原稿やスライドの中で、児童が英語で表現したいところは、専科の水本先生やALTのマーティン先生に質問しながら、準備や練習を進めた。

	内容	発表方法
たてわり活動Aチーム	◎たてわりリレー ◎たてわり駅伝 ◎たてわり大縄大会	スライド
たてわり活動Bチーム	◎たてわりお花見 ◎たてわり遊び ◎たてわり掃除	スライド
行事チーム	◎どんぐりフェスティバル ◎業間マラソン	スライド
いろいろな場所チーム	◎体育館 ◎きのこの森 ◎畑 ◎いちょうの木	その場所で撮影

	
<p>たてわり活動についてスライドで紹介</p>	<p>いちょうの木について紹介</p>

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

台湾南投県双冬小学校とのオンライン交流は3年目を迎えた。昨年度はライブでそれぞれの学校が英語を使って交流をしたりダンスを踊ったりしたが、音声聞き取りにくく、画像が途切れることもあり、児童が準備したことが十分に伝えられない課題があった。そこで、本年度は動画で撮影したものを事前に双冬小へ送り、オンライン交流の前に視聴して互いに感想や質問を伝え合うという試みに変えた。それにより、児童が発表内容を十分に理解した上で交流することができた。

また、昨年度までは『どんぐりころころ』を一緒に歌うだけだったが、今年度は台湾の童謡を中国語で歌うことも取り入れ、児童が楽しんで練習する様子も見られた。

3・児童の感想から

- ・ 台湾は、いろいろな食べ物や植物で色とりどりだし、チリスプレーなどを自分たちで作ったりしていて、私も台湾に行ってみたいと思いました。バタフライピーレモネードを飲んでみたいです。
- ・ 双冬小学校の人たちのダンスやどんぐりころころがとても上手で驚きました。パロポを歌って、とても楽しかったです。来年も交流したいです。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

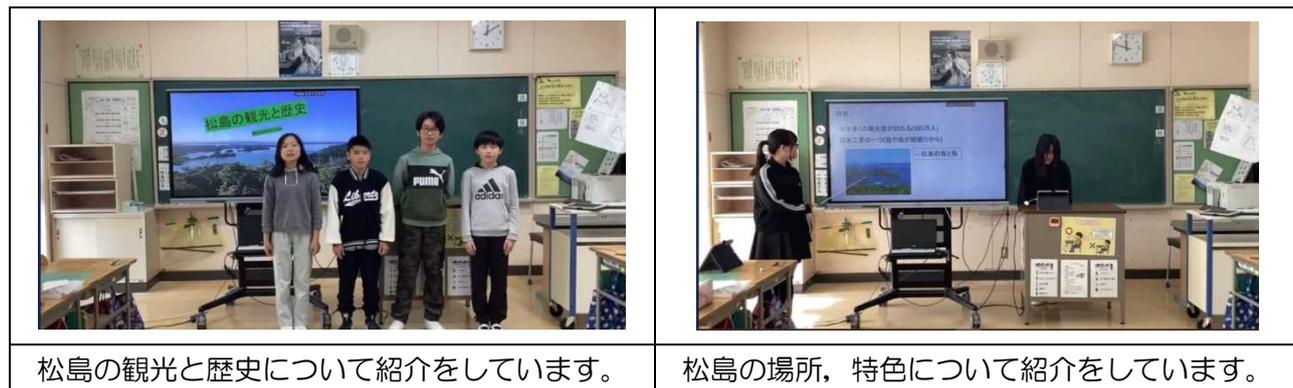
自分たちが普段生活している学校について紹介するというのが、児童にとって身近なテーマで取り組みやすかった。双冬小学校の人に紹介することで相手意識が生まれ、主体的に活動できた。一方、紹介したいことがたくさんありすぎて、どこまでを英語で表現するかが難しかった。

松島第五小学校 6学年 台湾・双冬小学校とのオンライン交流
学年テーマ「双冬小学校の人たちに松島を紹介しよう」

1・活動の概要

6年生は、松島の歴史や特色について紹介をした。子供たちの中には、中国語を使って発表する児童もいた。発表内容を考えるにあたって松島について事前に調べ、台湾の方が理解できるよう内容を厳選して伝えた。

発表内容を全て英語で話すには、子供たちにとって単語が難しいこともあり、日本語を多く用いて発表をした。



2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

台湾南投県双冬小学校とのオンライン交流は3年目を迎えた。昨年度はライブでそれぞれの学校が英語を使って交流をしたりダンスを踊ったりしたが、音声が聞き取りにくく、画像が途切れることもあり、児童が準備したことが十分に伝えられない課題があった。そこで、本年度は動画で撮影したものを事前に双冬小へ送り、オンライン交流の前に視聴して互いに感想や質問を伝え合うという試みに変えた。それにより、児童が発表内容を十分に理解した上で交流することができた。

また、昨年度までは『どんぐりころころ』を一緒に歌うだけだったが、今年度は台湾の童謡を中国語で歌うことも取り入れ、児童が楽しんで練習する様子も見られた。

3・児童の感想から

- ・ 台湾の方に内容を伝えるとき、発表内容を理解してくれているか不安になった。内容を分かりやすく伝えようとすればするほど時間がかかり大変だった。
- ・ オンラインで交流をしているため、相手の反応が感じられないときがあった。お互いに反応し合うと発表を理解してくれているかどうか分かりやすい。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

6年生は松島について紹介をしたが、紹介することが多くありそれを全て英語にするには難しかった。しかし、外国語の授業の中で取り扱わない単語が多かったため、「もっと単語を知りたい」という声もあった。子供たちのできる範囲で英語を活用していくことが必要であると考えた。